

野菜の展望

朝晩の冷え込みも強まり、一段と秋の気配を感じられるようになりました。今月の野菜は、多くの地域で台風と豪雨の影響が残っており、回復の兆しが見えるまでやや時間がかかりそうです。又、秋冬産地へと切り替わる品目も多く見られ、出荷が後へずれ込む傾向と見込んでいます。

根菜類の大根は北海道・岐阜・青森産が終盤となり、石川産主力の入荷になります。県内主力のJA金沢市は作付面積が減少するも作柄は良好と見られます。人参は北海道主力に青森産の入荷で、昨年のような不作ではないものの長雨から歩留りが悪く、今後の集中出荷は見込み薄となりそうです。蓮根は石川主力に茨城・愛知産の入荷です。県内産は太物中心にして前年並の入荷量と見られます。甘藷は石川主力に関東産の入荷で、県内産に関しては、掘り込み等の作業によって日々の入荷に増減があります。里芋は宮崎・大阪中心に中旬より福井産が加わり、安定入荷が予想されます。

果菜類の胡瓜は福島・山形産が上旬で終了予定となっており、その後は群馬・石川(抑制物)産主力に中旬より高知産が加わり順調な入荷を見込んでいます。茄子類では中茄子が高知主力に石川・群馬・山形産の入荷です。群馬・山形産については中旬で終了の見通しです。トマトは石川・愛知(抑制物)産が安定期を迎えて前年以上の入荷を見込んでいます。南瓜は北海道産主力の入荷で前半は品種の切り替わりから不安定な入荷となります。下旬からはトンガ産が加わります。

葉茎菜類の白菜は、長野産主力の入荷で下旬より石川産が加わります。長野産の秋作もピークを迎えますが、先般の降雨により当初計画よりやや出荷減少が予想されます。キャベツは群馬産主力に長野産の入荷で、生育の回復は見られず切り上がりが早くなりそうです。その他に石川産も加わり、下旬には茨城・愛知産の入荷も計画していますが台風被害もあり、前半は不安定な入荷が予想されます。ほうれん草は岐阜産に加え、群馬・石川産も出荷の最盛期を迎え、前年をかなり上回る入荷となります。レタスは長野産(高冷地物)も終盤を迎え、中旬以降より茨城産が主力となり、下旬には兵庫産(あわじ島)も加わってきます。ブロッコリーは石川産が最盛期を迎え、平年並の入荷量が見込まれます。

菌茸類の松茸ですが、国内産では石川産を中心に長野・岩手からの入荷となります。県内産については、例年よりも遅れ気味であり数量的には期待できません。輸入品では主力の中国産がすでにピーク期を過ぎており、韓国・アメリカ・カナダ産からの入荷となります。椎茸は県内産主力ですが、気温低下とともに安定入荷となり品質も向上します

ナメコは気温の低下にともない需要は強まり、原木ナメコもピークを迎えます。長野・新潟産主力のエノキ・シメジは生産の安定期に入ります。

土物類では馬鈴薯が北海道全域から入荷します。本年は2Lの比率がかなり低く、小玉傾向となります。玉葱は産地での貯蔵作業が始まりますが予想以上に歩留りが悪く、価格によっては市場への出回り量が抑えられることも考えられます。

10月は、イベントも数多く実施され多彩な企画立案の上、拡販をお願いいたします。

《野菜第一部 田中昭市》

果実の展望

いよいよ秋も本番を迎え秋冬果実の本格的な出荷時期に入ります。

ミカンには福岡・長崎・和歌山産を主力に極早生種の入荷となります。本年産はミカンの作柄が表年となりますが、出荷量は昨年と比べてやや多めといった程度です。また、梅雨入りと梅雨明けが平年より早く、また日焼け果の発生もあり、数量は見込み量を下回る可能性もあります。果実肥大につきましては、適度の降雨で前年より大玉傾向となる見込みです。食味については高糖・高酸気味と見込まれます。

柿は和歌山産の平核無柿に、福岡・愛知・岐阜産の西村・伊豆・松本・次郎・富有・筆柿の入荷です。各産地ともに天候の影響により昨年と比べて若干遅れがあるも平年並の入荷となります。

リンゴは長野産中生種(シナノスイート・秋映・ジョナゴールド)を主力に青森産中生種(ジョナゴールド・王林)が出揃ってきます。着色遅れ、及び着色不良により昨年同様、遅れが予想されます。

梨は県内産主力の豊水から南水・あきづき・新高といった晩生種の販売となります。県内産の新高は中旬からの販売、県外産については上旬からの販売を予定しています。

ブドウ類は長野産の巨峰や山梨産の甲斐路、岡山産のアレキサンドリア・シャインマスカット等を中心とした大粒系の販売で、前年よりも少ない入荷が予想されます。

瓜類については静岡産が前年よりも少ない出荷予想ですが、石川アールズについては、4・5玉中心の出荷で前進出荷となっており、前年よりやや早めの切り上がりとなる見込みです。北海道の赤肉メロンは今月一杯の販売予定ですが、前年より少なめの入荷となりそうです。

いちじくは石川産主力の入荷です。9月の天候不順・台風の影響から玉肥大が悪く出荷減が予想されます。

栗は前半は県内産主体の販売となりますが、県外産の愛媛・岐阜・茨城産等の入荷も前年並に予想されます。

輸入果実のバナナはフィリピン産主力に南米産の入荷です。各産地ともに生育良好であり、順調な入荷が予定されておりますが、価格は前年並にて推移するものと思われれます。オレンジはオーストラリア産ネーブル種とバレンシア種、及び南アフリカ産のバレンシア種の販売で、オーストラリア産は小玉傾向の玉流れ、南アフリカ産は各サイズ安定した入荷が見込まれます。グレープフルーツは、前半に南アフリカ産ルビー種の残量の販売。下旬よりフロリダ産ルビー種、及びホワイト種の販売がスタートします。レモンはチリ産中心ですが後半よりカリフォルニア産新物の入荷が始まります。パインアップルは産地での天候不順の影響でゴールデン・スウィーティオともに大玉サイズ中心に減少傾向と見られ、価格は高値で推移するものと思われれます。ニュージーランド産のキウイフルーツはグリーン種のみ販売で安定した入荷が見込まれます。その他、秋商材として乾燥果実の干芋・甘栗の販売が本格化しますし、韓国産のむき栗、カリフォルニア産のザクロ・ハネジュウメロン・レッドグローブ等も入荷いたします。

以上、今月も一層の拡販をお願いいたします。

《果実部 大西 信哉》